

## パブリックコメント「第4次豊田市農業基本計画（案）」における意見募集結果

## ●意見通数

305通（うち、Eモニター186通）

## ●意見の内訳

総数で361件の意見があり、項目ごとに分類しました。

分類	意見件数
計画全体について	19件
基本的な推進施策 【人】 農業人材の育成・確保について	36件
基本的な推進施策 【農地】 農業生産基盤の強化について	10件
基本的な推進施策 【生産】 農業経営の効率化・高付加価値化について	23件
基本的な推進施策 【環境】 環境にやさしい農業の推進について	14件
基本的な推進施策 【消費】 地産地食の推進について	38件
基本的な推進施策 【交流】 “農”を介した関係人口の拡大について	41件
感想等（Eモニターの選択式アンケートのみの回答者を含む）	180件

## ●寄せられた意見に対する豊田市の考え方

意見等の概要は、主旨を損なわない範囲でいただいた意見を集約及び要約しています。

また、感想等を除く意見に対して、市の考え方を示しています。

## ●その他

本計画は、提出いただいたご意見を参考に、令和7年3月までにまとめる予定です。

(1) 計画全体について

意見等の概要	意見数	豊田市の考え方
<ul style="list-style-type: none"> <li>・計画を読んで農業のイメージが変わった。計画をもっと広めてほしい。</li> <li>・字が多く情報量が膨大すぎるため、もっと読みやすくしてほしい。</li> </ul>	7	<p>計画の周知については、各施策や取組を進める中で、よりわかりやすく市民の皆様が計画への理解を深められるよう工夫をしていきます。また、図書以外にも様々な機会や媒体を活用しながら、幅広く市民の皆様と共有を図ります。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・農業は単独で成り立つものではない。地域との連携を強化して農業の面白さ、地球へのどのくらい貢献しているかを知ってもらいたい。</li> <li>・農家が抱える問題をもっと知ってもらうことで、より消費者側の意識も高まり、解決できるのではないかな。</li> </ul>	2	<p>生産者である農業者と、消費者である市民がともに豊かな暮らしを実現していくため、「農業者施策」と「市民施策」を両輪とした基本的な推進施策を着実に推進していくとともに、様々な媒体を活用し、機会を捉えて本市の農業について情報発信に取り組みます。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・多くの若い人は農業について良いイメージを持っていないため、農業の面白さや楽しさを伝えられる計画になると良い。</li> <li>・計画を実現していくためには、若い人たちが参加していけるような計画の推進をしてほしい。</li> </ul>	2	<p>農業が、子どもや若年層を始め人々にとって、農業で働きたい、暮らしに農業を取り入れたい、農業に関わりたいと思える魅力的な産業分野であることが重要と考えており、その実現に向けて重点プログラム「あすの農業人材」育成・確保の取組を進めていきます。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・計画を策定する上で農業者や市民の声を実際に聞いたのか。</li> <li>・支援内容は、農業従事者の要望をヒアリングして計画的に進めるべき。</li> </ul>	2	<p>計画の策定に当たっては、農業者へのアンケートや関係者へのヒアリング調査などを実施したほか、農業者に加え流通・小売や消費者の代表により構成される検討部会を設置するなど、幅広く市民や関係者の意見をお聞きしながら策定をしています。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・農業に関する自給率を上げる施策が望まれる。</li> <li>・豊田市の食料自給率と目標を示すべき。</li> </ul>	3	<p>広域化している食品流通の現状を踏まえると、豊田市単独での食料自給率を計画の指標とする必要性は低いと考えています。ただし、豊田市では市民の市内産農産物を購入する意識は他市町村に比べて高く、引き続き市民が豊田市産農産物を買って支える環境づくりを目指して地産地食の推進に取り組んでいきます。</p>

<ul style="list-style-type: none"> <li>・農業には、環境、防災、生物多様性などの意義があるため、予算措置を抜本的に増やすべき。</li> <li>・計画するくらいなら予算を渋らず完遂してほしい。</li> </ul>	2	<p>目指す姿の実現に向けて必要な取組について、適切に予算を確保しつつ、着実に実行していきます。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・自給自足や小さな農業を広めてほしい。</li> </ul>	1	<p>重点プログラムの取組の視点のうち「選べる農業の推進」において、農業者それぞれが目指すライフスタイルを実現するために農業との関わり方を選べることを目指します。自給自足や小さな農業を含めた、多様な農業との関わり方が実現できるように取り組んでいきます。</p>

(2) 基本的な推進施策 【人】農業人材の育成・確保について

意見等の概要	意見数	豊田市の考え方
<ul style="list-style-type: none"> <li>・若い人には農業は面倒くさくて大変だというイメージがある。農業についてわかりやすく、楽しさを伝えられると良い。</li> <li>・農業の意義や楽しさなど、農業の基本的なところをしっかりと知ってもらうことが重要。</li> <li>・人材確保のため、もっと SNS をうまく活用して農業の魅力を発信すると良い。</li> <li>・自身の経験として、小学生の時に田植えをした体験が、大変だったけど楽しい思い出になっている。色々な人に農業に興味を持ってもらうためには、体験してもらうことが必要。</li> </ul>	16	<p>子どもや若者の将来の選択肢の一つとして農業が選ばれるため、農業に関心を持つきっかけの一つとして、農業体験等を通じた農業理解の促進は重要であると考えています。子どもや若者に農業の重要性や魅力を知ってもらうため、SNS の活用も含めた多様な機会や媒体を用いて、効果的な情報発信に取り組んでいきます。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・農業人材のマッチング支援にあたり、最適なマッチングができるように条件付けができるような仕組みが必要。</li> <li>・繁農期に手伝いやアルバイトができることで、労働力不足の解消や地産地食にもつながるのではないかな。</li> <li>・農業人材を集めるためには「誰でも良い」ではなく、「こういう人を」「どういう部門・品種で」など詳細に記載することが必要。</li> </ul>	4	<p>担い手育成や人材マッチング支援の具体的な取組を進めていく中で、いただいたご意見を参考にさせていただきます。</p>

<ul style="list-style-type: none"> <li>・この計画では、農家の元の数を増やすというより、農業に参画する人を多くする、というものに近い。元の農家の数が少ないことへの対策はどのようにするつもりか。</li> <li>・新規就農者を増やすことよりも、現在農業に携わっている方々への支援に力を注ぐ方がより安定した農業になるのではないか。</li> </ul>	3	<p>基本的な推進施策のうち「【人】農業人材の育成・確保」の「(1) 担い手の経営維持・拡大に向けた支援」において、既存の担い手への支援強化と農業経営の安定化を図っていきます。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・若い人の農業への新規参入には初期費用が高いことがハードルとなっており、支援の充実が必要。</li> <li>・私が農業をしたくない理由は初期投資が高いこと。金銭面の支援が必要。</li> </ul>	3	<p>市、県、JA 等の関係機関が連携した就農相談等を通じて、それぞれの新規就農希望者が目指す農業に適した支援制度の活用を図っていきます。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・農業は休みがほとんどなく、夏は暑く、冬は寒い大変な仕事。1 年を通じて農業に関わることが大切。</li> <li>・就農者を増やすためには、育成期間の短い作物を利用して種まきから収穫までの全てを体験させると良い。</li> </ul>	3	<p>農業体験や農業者との交流機会の拡大に向けて、様々な機会や手法を用いて取り組んでいきます。具体的な取組の手法として、いただいたご意見を参考にさせていただきます。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・農業をやったことがない人にとって、一人でやるのはとても難しいことだから、農ライフ創生センターによる初級コースで体験機会をいれることはとても良い。</li> <li>・高齢化によって増加する耕作放棄地対策として、農業リタイア者と農ライフ創生センター修了生をジョイントできないか。</li> </ul>	2	<p>引き続き、農ライフ創生センターの初級向け研修の開催や、民間による市民農園の開設・運営支援などを通じて、市民が農業に親しみやすい環境の整備に取り組んでいきます。</p> <p>現在においても農業リタイア者から農地使用の要望が農ライフ創生センターに届いた場合は、修了生に情報提供等を行っています。今後も同様に農地の有効利用促進を支援していきます。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・大人でも農業を勉強出来る場所を作り、もっと情報を発信していくことが大切。</li> <li>・農業の担い手を確保するためには、世代関係なく育成していくことが必要。</li> </ul>	2	<p>現在、農ライフ創生センターにおいて、農業の勉強ができるコースがあり様々な世代が研修に臨んでいただいています。</p> <p>人口減少社会・人生 100 年時代における持続可能な農業の実現に向けて、多様な農業人材が、多様な農業との関わり方を選べるように、重点プログラムで取り組んでいきます。</p>

<ul style="list-style-type: none"> <li>・農家の収入を年間を通じて安定させることができれば農業人口が増える。災害や凶作への対策を増やし、支援を手厚くすることで、農家も安心して農業ができる。</li> <li>・自然災害や近年の温暖化などで収入が安定しない現状があり、新規就農者のハードルとなっているため、何かしらの対策が必要。</li> </ul>	2	<p>水田の経営所得安定対策、作物共済、農業収入保険のほか各種価格安定対策等、国や自治体、農業者団体により農業の経営安定に資する制度を運用しており、それらの制度活用について、農業者の経営に添った提案ができるよう取り組んでいきます。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・農業への新規参入促進の施策は重要。特に企業が農業に参入する障壁を緩和するなど抜本的な政策が必要。</li> </ul>	1	<p>農業の担い手確保に向けて、本市では「農業参入ガイドブック」を作成して企業の農業参入を応援しています。引き続き、企業を含めた多様な農業人材の育成・確保に向けて取り組んでいきます。</p>

(3) 基本的な推進施策 【農地】 農業生産基盤の強化について

意見等の概要	意見数	豊田市の考え方
<ul style="list-style-type: none"> <li>・経営耕地面積の減少には都市開発が影響している。</li> <li>・農業に適している土地は限りがあるので、農地転用をもう少し厳しくしても良い。</li> <li>・耕作放棄地や山林などを活用して農地を確保すべき。</li> <li>・使われていない農地を教育や交流事業で活用してはどうか。</li> </ul>	4	<p>令和7年3月末公表予定である、将来の農地利用の姿や取組方針等を定めた「地域計画」に基づき、地域ごとで話し合い、優良農地の適正な保全や活用に取り組んでいきます。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・鳥獣害対策で被害を減らすため、鳥獣害予防に効果的な対策や制度をまとめたパンフレットを作り農家に配ってはどうか。</li> <li>・鳥獣害対策は作物だけでなく人への被害も想定されるので、細かな情報発信をぜひお願いしたい。</li> </ul>	4	<p>必要な人に必要な情報が届くよう、効果的な情報発信に努めます。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・鳥獣害対策について、動物も必死に生きているので絶対に殺すべきではない。捕まったら遠くの森に逃がすなどしてほしい。</li> </ul>	1	<p>鳥獣害対策においては、まずは鳥獣を「寄せない」「入れない」ための対策を図るとともに、捕獲した鳥獣については動物の生態や地域の状況を考慮し適切に対応します。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・駅近などの農地は宅地化して人口を増やすべき。</li> </ul>	1	<p>第9次豊田市総合計画における将来都市構造の基本的な考え方を踏まえつつ、「地域計画」に基づき守るべき農地の適切な保全や都市部農地の効果的な利活用など、メリハリをつけた農地利用の最適化に取り組みます。</p>

(4) 基本的な推進施策 【生産】農業経営の効率化・高付加価値化について

意見等の概要	意見数	豊田市の考え方
<ul style="list-style-type: none"> <li>・スマート農業を推進することで、農業への関心が上がリ、農家が今後も農業を続けていきやすくなるのではないか。</li> <li>・スマート農業をもっと推進するべき。より多くの農業者がスマート農業に取り組みやすい環境を作り、支援していくことが重要。</li> <li>・若い人が農業に参入するためには、金銭的な支援に加えて肉体的な負担の軽減が大切。</li> </ul>	13	<p>農業者の負担軽減や農業経営の効率化に向けて、スマート農業・農業 DX の推進を進めていきます。具体的な取組の中で、いただいたご意見を参考にさせていただきます。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・スマート農業を推進するため、実践者の見学会や勉強会など普及啓発を進めるべき。</li> <li>・高齢の農業者でもスマート農業が導入できるように、講習を開催したり学ぶためのサポートが必要。</li> </ul>	3	<p>スマート農業に関する研修会や実証事業の展開、先進的に導入している農業者の事例紹介などを通じて、農業者や関係機関のスマート農業の理解を促進していきます。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・スマート農業を推進するうえで課題になるのは初期投資</li> <li>・スマート農業を導入するためには支援制度や最初はレンタルから取り組むなどの仕組みが必要</li> </ul>	3	<p>各種支援制度の活用によりスマート農業が推進されるよう支援していきます。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・過去に実施されていた二期作、二毛作、混植なども施策に加えることでさらなる生産基盤強化に繋がるのではないか。</li> <li>・農作物の中にも儲かる作物と儲からない作物があるため、儲からない作物を作っている農家の収入を上げる方針の方が良い。</li> <li>・まだ馴染みのない珍しい野菜を取り入れることで、少し高く売ることができないのではないか。</li> </ul>	3	<p>経営の多角化及び高収益化への取組の中で、いただいたご意見を参考にさせていただきます。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・食用米からの転換には反対であり、玄米の保存性の高さから食料不足時への備蓄として豊田市独自に一定量を保管管理してほしい。また稲作を続けながら冬季の麦栽培、畦道を利用した大豆栽培等も検討していただきたい。</li> </ul>	1	<p>主食用米からの転換を含め、収益性向上に向けた農業者の様々な選択を支援していきます。米の備蓄を含めた食料安全補償については、基本的に国の責務と考えるため、豊田市独自に実施する予定はありません。</p>

(5) 基本的な推進施策 【環境】環境にやさしい農業の推進について

意見等の概要	意見数	豊田市の考え方
<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境にやさしい農業の推進に向けて、カーボンファームを広めてはどうか。</li> <li>・スマート農業によって燃料を削減することができ環境にやさしく、人も助かるような農業と機械の関係をもっと広げていくことが重要。</li> </ul>	5	<p>農業のカーボンニュートラルに資する取組を検討する中で、カーボンファームやスマート農業を含めた様々な方法論を研究・推進していきます。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・化学肥料・農薬の使用低減のためには、化学肥料・農薬を使用した場合と同等の生産物を作れるための研究と普及啓発が重要。</li> <li>・農薬の影響でいなくなる生物が多くいるため、「使用低減」を少しずつ「無くす」にしてほしい。</li> </ul>	4	<p>化学肥料・農薬の使用量の低減に向け、先進事例等を研究するとともに、市内の好事例について情報発信及び横展開を検討していきます。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ダンボールコンポストを家庭で行う取組があるが、できた堆肥をうまく使えない人が多いのではないかと。コンポスト使用者の堆肥が農産物の栽培・収穫・販売までつながる循環の仕組みを考えてほしい。</li> <li>・廃プラスチックの排出抑制は良いと思うが、プラスチックは軽量で使い勝手がよいから取り入れられているので、環境にやさしく軽くて丈夫な代替資材を推進してほしい。</li> </ul>	2	<p>環境に配慮した農業に関する情報発信や農業分野の環境負荷低減の取組の見える化を進める中で、いただいたご意見を参考にさせていただきます。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・耕種農家と畜産農家が連携して肥料と飼料を循環することでSDGsにもつながり、コスト削減にもつながるのではないかと。</li> </ul>	1	<p>化学肥料の低減につながる堆肥の活用、飼料作物の生産など耕畜連携を推進していきます。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・スマート農業機械・設備の導入がなぜ環境負荷低減やカーボンニュートラルに資するのか明らかしてほしい。また、メタンガス等の温室効果ガスが地球温暖化に影響しているのか100年1000年単位での気候変動・気温の上下動を考察すべき。</li> </ul>	1	<p>スマート農業を活用した機械等の導入により稼働時間が減少し使用燃料が低減されること、正確かつ適所への施用により肥料や農薬の使用量が低減されること、それらのことから、カーボンニュートラルに資するものと捉えています。</p> <p>メタンガス等の地球温暖化への影響については、研究機関等から発信される情報等を参考にします。</p>

<ul style="list-style-type: none"> <li>・実際に農業をしており、化学肥料・農薬の使用低減の難しさを感じている。化学肥料・農薬の使用低減の具体的な案を教えてください。</li> </ul>	1	代替肥料の活用や有機農業や特別栽培農産物の栽培などが考えられますが、具体的な事例として、環境に配慮した農業に関する市内外の先進事例・好事例について情報発信を強化していきます。
--	---	---

(6) 基本的な推進施策 【消費】地産地食の推進について

意見等の概要	意見数	豊田市の考え方
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「地産地食」という言葉はわかっても、その意義までは理解されていない。国産と外国産の違いは分かりやすいし気にしている人も多いが、国産・県内産と豊田市産の違いやメリットは理解できていない。</li> <li>・若い人への地産地食の啓発のため、SNSをもっと活用したほうが良い</li> <li>・SNSは興味のある分野の情報しか出てこないため、若い人でも見るような媒体を工夫すると良い</li> <li>・食べられるが売れない野菜などをこども食堂や生活困窮者に提供することで、環境にやさしく、食品ロスの視点で年寄からこどもまで幅広く豊田市産農産物を知ってもらう機会となるのではないかと。</li> </ul>	13	豊田市産農産物の魅力や地産地食への理解促進に向けて、引き続き様々な機会や媒体を用いて積極的に情報発信を行います。具体的な手法を検討する中で、いただいたご意見を参考にさせていただきます。
<ul style="list-style-type: none"> <li>・地産地食を推進するためには、スーパー等にもっと地産地食コーナーの設置が必要。</li> <li>・豊田市産農産物が販売されているだけでなく、豊田市産であることのわかりやすい表示や、栽培の様子や作物の説明等を加えることで親しみやすくなるのではないかと。</li> <li>・農協やスーパーでの農産物の販売規格を緩和し、小規模農家でも販売しやすくしてほしい。</li> </ul>	8	市内産農産物を使用・提供する飲食店・小売店の増加に向けて積極的にPRするとともに、登録店の情報発信や連携事業などを実施することで、市民が市内産農産物を購入しやすい環境づくりに向けて取り組んでいきます。
<ul style="list-style-type: none"> <li>・地産地食を進めるため、農産物直売所を増やすべき。</li> <li>・市街地周辺でも道の駅や直売所のような販売ができる場が増えると良い。</li> </ul>	4	農産物直売所の機能強化・認知度向上につなげるため、農産物直売所の運営支援に取り組んでいきます。

<ul style="list-style-type: none"> <li>・豊田市産農産物を選ばれるためには、価格が安いことが必要。</li> <li>・豊田市産農産物を選びたいが高く感じる。バラ売りなど、買いやすい数量や方法を工夫してほしい。</li> </ul>	4	<p>品目によっては大量生産が難しい等の理由から他産地に比べて価格が高くなる場合がありますが、地産地食には食品の鮮度の良さや流通に係るコストや環境不可の軽減、地域農業の維持につながるなど、様々なメリットがあります。こうした地産地食への理解促進に向けて、積極的に情報発信や普及啓発に取り組んでいきます。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・農家が売れる農産物の価格が安すぎる。そして安ければよいという消費者が多すぎる。消費者の意識を変えるため教育や啓発が必要。</li> <li>・農産物直売所などで販売額が安くすることで生産者の負担が大きくなっている。</li> <li>・今までの米の価格がとても安かったということを知ってもらえるようにした方がよい。</li> </ul>	4	<p>農業生産の持続性を確保するため、再生産価格を踏まえた農産物の適正価格を形成することは重要であると考えています。一方で、豊田市産農産物が消費者に選ばれることも重要であるため、生産・消費の両面からブランド化と地産地食の推進に向けて取り組んでいきます。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・豊田市内の学校給食のうち豊田市産で賄える食材はすべて豊田市産を使用すべき。</li> <li>・学校給食で使用される食材は昼の放送で献立の説明をされこどもたちの記憶に残りやすいため、給食に豊田市産農産物を使用することで将来的にも地産地食につながるのではないかと。</li> </ul>	4	<p>学校給食は、大量に短時間で調理を行う必要がありますが、時季や日ごとの献立に合わせて、必要な食材の種類、量、金額等を考慮して調達しています。</p> <p>本市の学校給食においては、米飯や米粉パン、豆腐や納豆などの大豆製品、豚肉、ブルーベリーゼリー、抹茶ふりかけなど、すでに多くの地元農畜産物を使用しており、地産地食に努めています。</p> <p>地産地食に関する他の事業とも連動させながら、今後も学校給食における地産地食の取組を推進していきます。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・すべての豊田市産農産物がブランド化して高値になっては購入し難くなるため、ブランド化する農産物をカテゴリー分けした方がよい。</li> </ul>	1	<p>本市では米、桃、梨、お茶など 16 品目のブランド化推進品目を定めてブランド化に取り組んでいます。ブランド化や地産地食の推進においては、【生産】分野の取組と連携しながら、豊田市産農産物の情報発信や普及啓発に取り組んでいきます。</p>

(7) 基本的な推進施策 【交流】“農”を介した関係人口の拡大について

意見等の概要	意見数	豊田市の考え方
<ul style="list-style-type: none"> <li>・農業はやってみないとわからない。最近では農業と関わる機会が減っている。体験してみれば興味が持てる。</li> <li>・豊田市内の小中学校において農業実習の機会をもっと増やすべき。</li> <li>・学校での農業体験は小学校のときしかない。中学・高校など幅広い年代にも体験してもらおうべき。</li> </ul>	19	<p>基本的な推進施策「“農”を介した関係人口の拡大」を中心に、行政、教育分野、農業者、商業者等、農業に関わる幅広い分野で連携し、様々な取組を展開することで、こどもや親の地域農業に対する関心を高めていきます。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・昔ながらの農業体験ではなく、今進んでいるスマート農業を体験すると良い。</li> <li>・農業体験は収穫だけでなく、土を耕す・種をまくといった大変なところから体験することで、収穫時の達成感が感じられるため、栽培と収穫の両方を体験できる事業を検討してほしい。</li> <li>・暑くて外で農業体験できないときのため、屋内でミニチュア版の農業体験ができるようなものがあると良い。</li> <li>・一過性の体験に終わらず、農業者と体験者がメッセージをやりとりするなど、交流が続くと良い。</li> <li>・今時、農業をやりたいこどもはほとんどいない。イベントなどでは、魅力的な特典を用意するなど体験以外のメリットを厚くしてまずは集めることが重要。</li> </ul>	13	<p>市や豊田市農産物ブランド化推進協議会による取組の推進のほか、農業者団体・市民活動団体・民間企業とも連携し、農業の魅力の発信を強化していきます。具体的な取組を検討する中で、いただいたご意見を参考にさせていただきます。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・希望しないこどもに農業をやらせることで、汚れたり大変でかえって農業への興味がなくなるこどもを増やしてしまう可能性があるため、農業体験は希望するこどもに向けて取り組むべき。</li> <li>・小学5年生で米作りを体験したが大変だった記憶しかない。農業＝大変・過酷のイメージがこどもについてしまう。</li> </ul>	4	<p>重点プログラムのうち「選ばれる農業の実現」において、農業のすそ野を広げるため、農業が暮らしの中で関わることを目指していきます。プログラムを推進する中で、いただいたご意見を参考に、農業体験をすることでかえって農業のイメージが損なわれることがないように配慮します。</p>

<ul style="list-style-type: none"> <li>・週末農業ができる公的施設を設けて都会に拠点のある人でも山村部との繋がりがもてるような、里山保全と農的暮らしを推進する取組をしてほしい。</li> <li>・山村部では農業を営みながら暮らしている人がたくさんいる。観光や商業も含めて山村部の魅力を上げられるような取組があると良い。</li> <li>・山村部の農業を個々地主が続けていくことは厳しい。農業法人等の担い手が関わると良い。</li> </ul>	4	<p>山村部農業においては、農業振興と人口流出抑制、移住・定住施策や地域コミュニティ維持に向けた取組が相互に連動することが重要であると考えています。</p> <p>そのため、関係人口の増加や地域コミュニティ維持に向けて取り組む集落を支援するとともに、各集落の実情に応じた営農体制構築に向けて、農業法人を始めとした多様な経営体や人材が地域農業の維持に関われるよう検討していきます。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・農業を産業として維持していくためには、体験とか交流など悠長なことを言っている場合ではない。</li> </ul>	1	<p>農業が現在まさに直面している諸課題については、基本的な各推進施策で取り組んでいきます。一方で、それらの施策を農業者の視点から取り組むだけでなく、市民の視点からも農業の魅力や重要性が理解され、農業者の取組が応援されるように、交流や体験の施策が必要であると考えています。</p>